

アコースティック・ギター (生ギター)		エレクトリック・アコースティック (エレアコ)		エレクトリック・ギター (エレキギター)	
クラシックギター	フォークギター	エレガット	エレアコ	ソリッドギター	フルアコORセミアコ
					

略してアコギと呼ばれる。使われる弦と楽器の構造の違いからクラシックギターとフォークギターに分かれる。ボディに共鳴箱があり、楽器の生の音（電気で増幅しない）を聴かせるため生ギターとも言う。

クラシックギターがギターの元祖で古くはルネッサンス時代にも4コースギターが存在していた。現在はナイロン弦が使われるが、昔はガット弦（羊の腸）が使われていたのでガットギターと呼ばれることもある。ナイロン弦の優しい音色が特徴で、4本の指で演奏することで複雑な楽曲も演奏できる。ジャンルはクラシック、演歌、POPS、映画音楽、ラテン、弾き語りなど幅広く対応できる。

フォークギターはアメリカ生まれでスチール弦が使われ、主に弾き語りに使われることが多い。スチール弦をピックで演奏することが多く、華やかな音色が特徴。フォークソングの伴奏に使われたのでフォークギターと呼ばれる。スチール弦の張力が強いため、ネックにトラスロッドと言う鉄柱（ネック反りの調整棒）が入っており、ボディも丈夫に作られている。音量を得るためにボディも大きい。

アコースティック・ギターにピエゾ・ピックアップ（圧電素子PU）やコンデンサーマイクを付け、振動を電気信号に変えてギターアンプで増幅するギター。アコースティック・ギターで音を増幅するには別立てのマイクロフォンで音を拾う必要があるが、エレアコだとシールド（ケーブル）でギターとアンプを直接つなぐことができるので便利。

「ボリューム」や「トーン」の調整がギター本体で出来る。ハイポジションを弾き易くするために右肩をカットしたカッタウェイモデルが多い。ナイロン弦とスチール弦の両方があり、ナイロン弦ギターの場合「エレガット」とも呼ぶ。

スチール弦の振動をマグネティック・ピックアップで電気信号に変換して、それをギターアンプで増幅して演奏するギター。元々はボディに空洞のあるフルアコがジャズなどで使われはじめた。後に大音量で演奏するロック音楽用にフィードバック（ハウリング）の少ない、ボディに空洞のないソリッドボディのものが誕生した。

ボディには音量調整する「ボリューム」や、音質を変える「トーン」が付いている。ピックアップが2つ以上あるものには、切り替えスイッチがあり、切り替えると少しずつ音が変わる。ブリッジを上下することで6弦全体の音程を変化させるトレモロアームが付いているモデルもある。